

【ご参考資料】

2017年2月17日
野村アセットマネジメント株式会社

「USバンクローンファンド」を取り巻く投資環境ならびに運用経過について

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年終わりから今年にかけて、金融市場では大きな環境変化が見られます。その一つが「世界的な金利上昇観測」です。それにより、相対的に金利上昇に強いとされる「バンクローン」に資金が集まる動きが見られます。

当レポートでは、「USバンクローンファンド 為替ヘッジあり（毎月分配型）／為替ヘッジなし（毎月分配型）／為替ヘッジあり（年2回決算型）／為替ヘッジなし（年2回決算型）」（以下、ファンド）を取り巻く投資環境ならびに運用経過についてご説明いたします。

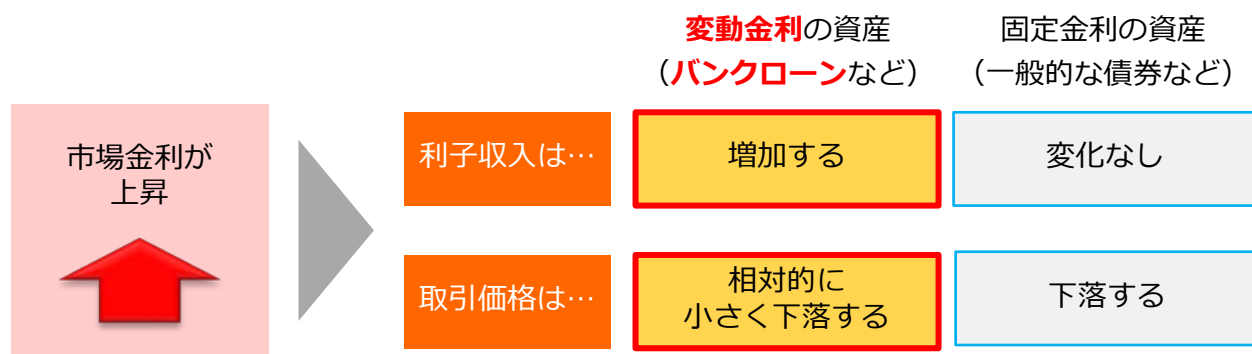
1.世界的な金利上昇観測が広がる中、注目される「バンクローン投資」

先行きの金利上昇を見込み、「バンクローン」へ資金流入の動きも

2016年11月に米大統領選挙で共和党のトランプ氏が勝利して以降、同氏の政策に対する思惑などから、世界的な金利上昇観測が広がっています。そのような中、金利上昇時に優位性を発揮する「バンクローン」に注目が集まっています。

バンクローンは、一般に変動金利資産です。市場金利が上昇する局面では、ローンの融資金利も上昇するため、バンクローンのクーポン（利子収入）の増加が期待できます。またバンクローンは、同年限の固定利付債券に比べ、市場金利変動による取引価格の変動が小さくなります。

<金利上昇時における変動金利および固定金利の資産の動き（イメージ）>



バンクローンは一般に変動金利資産だから、
市場金利が上がる局面で優位性があるんだね。



上記は、金利変動による各資産の動きを示したイメージであり、実際の市場金利の変動に対してクーポンおよび価格の方向性や変動幅を保証するものではありません。金利変動以外に信用度の変動など異なる要因を受け、上記とは異なる動きとなる場合があります。すべてのケースが当てはまるとは限りません。

（出所）各種情報を基に野村アセットマネジメント作成

当資料は、ファンドに関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載事項は、全て当資料作成時以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、バンクローン等を実質的に投資します（また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。）ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

2. 過去においても「バンクローン」は金利上昇時に優位性を発揮

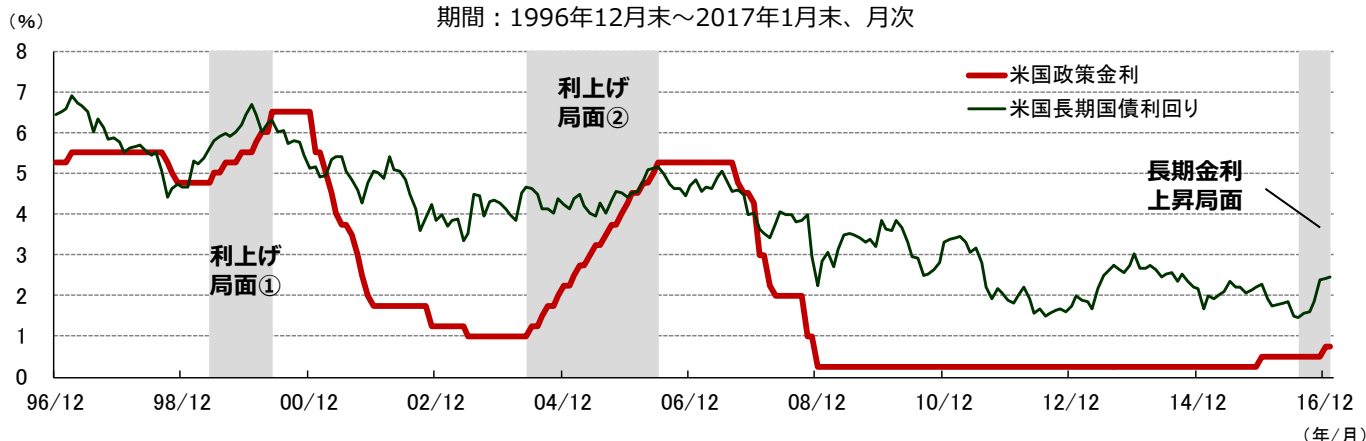
米国の政策金利が継続的に引き上げられた局面においてプラスのパフォーマンス

実際、過去に米国の政策金利が継続的に引き上げられた局面を見ると、バンクローンはプラスのパフォーマンスとなりました。

2016年後半からは、11月の米大統領選挙の結果や12月のFRB（米連邦準備制度理事会）による利上げ決定などを受けて米国の長期金利が上昇しましたが、この間もバンクローンは上昇しました。

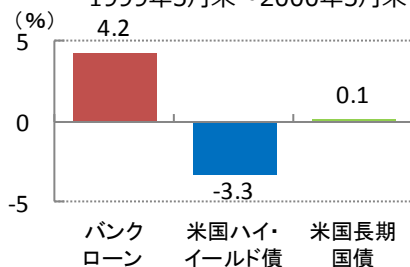
米国の長短金利の推移

期間：1996年12月末～2017年1月末、月次



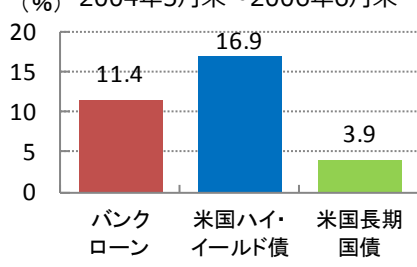
利上げ局面①

1999年5月末～2000年5月末



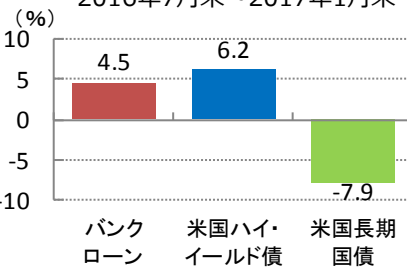
利上げ局面②

2004年5月末～2006年6月末



長期金利上昇局面

2016年7月末～2017年1月末



1999年からと2004年からの利上げ局面では、バンクローンはプラスのリターンになっているね。



(注1) 市場金利が継続的に低下する局面におけるバンクローンのパフォーマンスは、米国長期国債に比べ、劣後する場合があります。

(注2) 米国政策金利目標値は年0～0.1%等、幅で設定される場合がありますが、グラフ上はブルームバーグデータ（レンジの上限値）を使用しています。米国政策金利：FF金利（フェデラル・ファンド・レート）の誘導目標値、米国長期国債：BofA・メリルリンチ米国10年国債インデックス、バンクローン：S&P/LSTAレバレッジド・ローン・インデックス、米国ハイ・イールド債：BofA・メリルリンチ・USハイ・イールド・コンストレインド・インデックス（使用した市場指数は、すべて米ドル建てです。）

(出所) ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、ファンドに関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載事項は、全て当資料作成時以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、バンクローン等に実質的に投資します（また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。）ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しの投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

3. 「バンクローン」は様々な局面においても安定したパフォーマンス

原油価格の低迷や欧州における信用不安といった局面でも安定したパフォーマンス

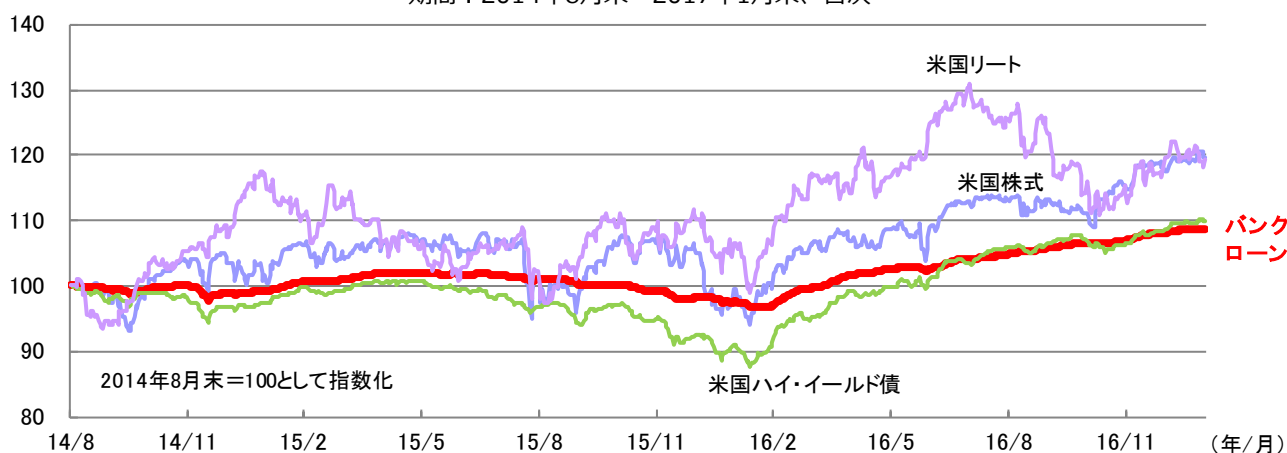
2014年秋以降、原油価格の低迷や欧州における信用不安などにより、市場にリスク回避姿勢が広がり、リスク資産が売られる局面が何度かありました。そのような中でもバンクローンは概ね安定したパフォーマンスとなりました。リスク水準で比較しても、相対的に低くなっていたことが分かります。

元本の保全性が高いバンクローンはパフォーマンスが安定しやすく、長期で投資しやすい資産

バンクローンは「多くの場合は担保が設定されている」「発行される際に借り手となる企業に対する厳しい制約条項がある」といった理由により元本の保全性が高いという特徴があります。そのため、ハイ・イールド債と同様に投資適格未満の格付の資産でありながら、相対的にパフォーマンスが安定しやすい傾向が見られます。パフォーマンスが安定しているということは、長期で投資しやすい資産と捉えることができます。

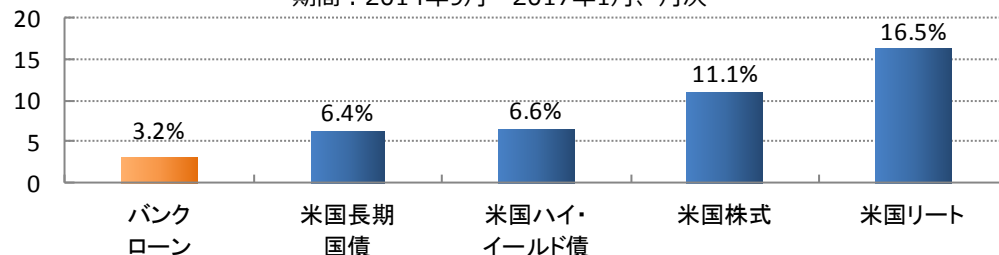
各資産のパフォーマンス

期間：2014年8月末～2017年1月末、日次



各資産のリスク（年率）比較

期間：2014年9月～2017年1月、月次



リスク（年率）は、月間変化率の標準偏差を年率換算して算出しています。標準偏差とは、平均的な収益率からどの程度値動きが離れるか、値動きの振れ幅の度合いを示す数値です。

米国長期国債や米国ハイ・イールド債と比べても、
バンクローンの方がリスクが小さいのね。



バンクローンは：S&P/LSTAレバレッジド・ローン・インデックス、米国ハイ・イールド債：BofA・メリルリンチ・USハイ・イールド・コンストレインド・インデックス、米国リート：S&P米国REIT指数、米国長期国債：BofA・メリルリンチ米国10年国債インデックス、米国株式：S&P500株価指数（配当込み）、（使用した市場指数は、すべて米ドル建てです。）
（出所）ブルームバーグ等のデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、ファンドに関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載事項は、全て当資料作成時以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、バンクローン等を実質的に投資します（また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。）ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。

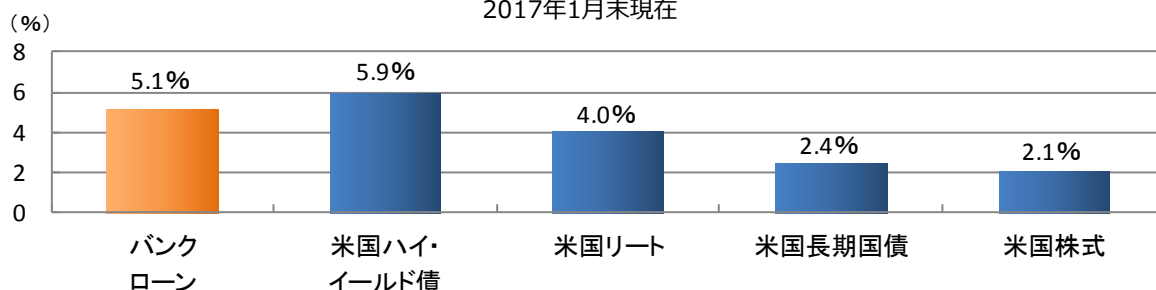
4. 「バンクローン」は相対的に高い利回りが特徴

相対的に高い利回りが確保できるため、パフォーマンスの下支え効果が期待できる

通常バンクローンは、米国ハイ・イールド債と同様、相対的に信用リスクが高いため、国債等に比較して高い利回りとなります。相対的に高い利子収入が積み上がることにより、パフォーマンスの下支え効果が期待できるという観点からも、長期投資に向いている投資対象であると言えます。

バンクローンと各資産の利回り比較（課税前）

2017年1月末現在



他の資産と比べてリスクが小さい一方で、利回りは相対的に高いというのはバンクローンの大きな特徴だね。



バンクローン：S&P/LSTAレバレッジド・ローン・インデックス、米国ハイ・イールド債：BofA・メリルリンチ・USハイ・イールド・コンストレインド・インデックス、米国リート：S&P米国REIT指数、米国長期国債：BofA・メリルリンチ米国10年国債インデックス、米国株式：S&P500株価指数（使用した市場指数は、すべて米ドル建てです。）

（出所）ブルームバーグ等のデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。
また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

5. 2017年の見通しならびに運用方針

以下はファンドにおいて実質的にバンクローン等の運用を行なうドイツ・インベストメント・マネジメント・アメリカズ・インクからの情報に基づいて作成しています。将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

金利上昇局面ではバンクローンの好パフォーマンスが期待され、足元では資金流入が増加

歴史的に見ると、金利が上昇していく局面では、価格下落リスクがある米国の投資適格社債やハイ・イールド債よりもバンクローンの方が良好なパフォーマンスとなる傾向があります。2017年においてはFRB（米連邦準備制度理事会）が年内に2回の利上げをすると予想しており、追加利上げ観測が継続する中、バンクローンにとって好ましい環境が続くと考えています。

実際、足元では個人投資家からの資金流入が増加しています。機関投資家による投資増加の動きも見られます。

運用方針としましては、BB格からB格を中心に組み入れつつ、安定した収益の確保を目指す方針です。また、トランプ政権の政策内容や実効性に関心が集まっており、政局動向にも注視しつつ相対的に割安な銘柄に投資を行ない、流動性や組入銘柄の信用力を考慮しながら分散投資とトータルリターンを追求していきます。

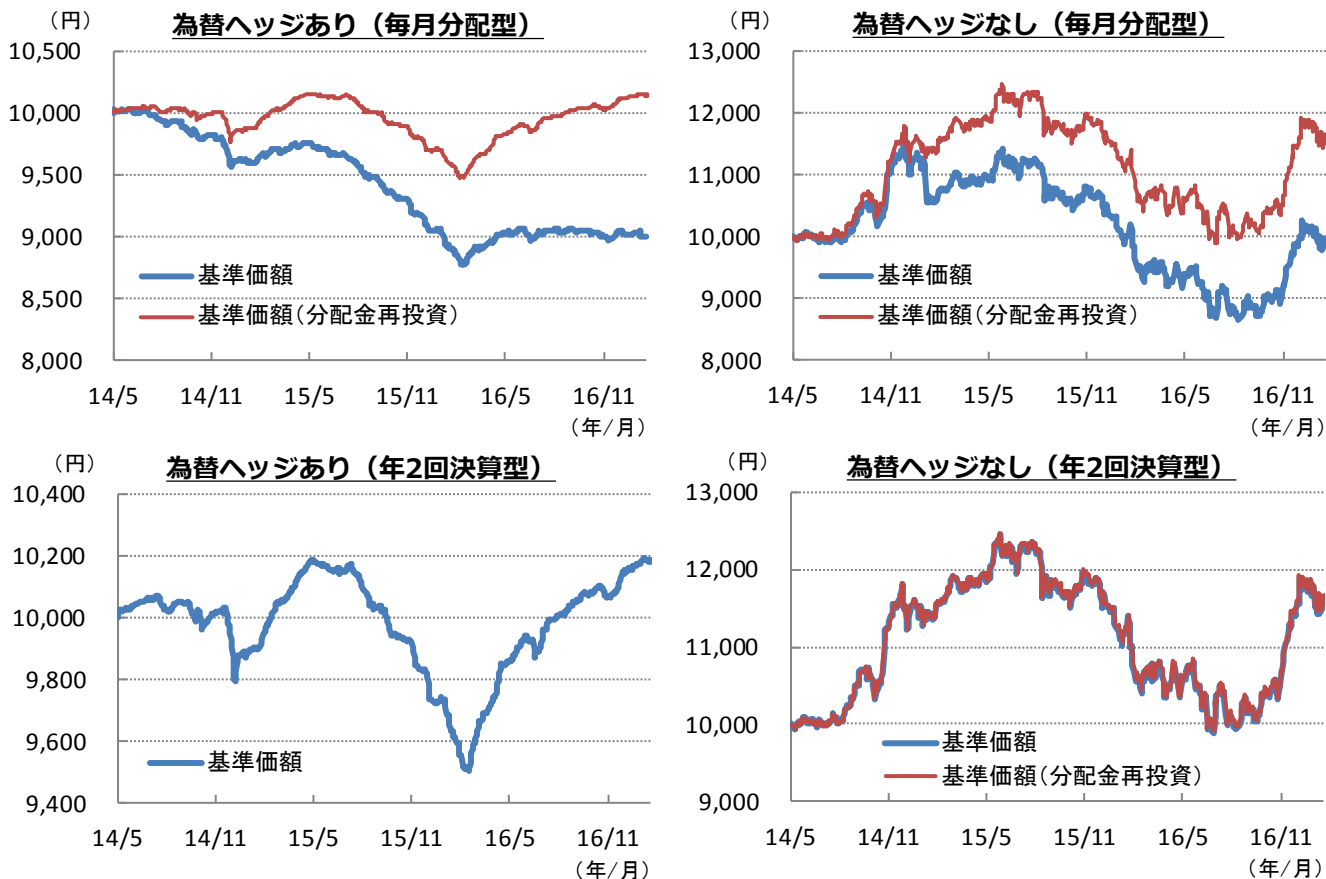
当資料は、ファンドに関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載事項は、全て当資料作成時以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、バンクローン等に実質的に投資します（また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。）ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しの投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

6. 設定来の運用経過について

ファンドの基準価額（分配金再投資）の設定来騰落率は、2017年1月31日現在、＜為替ヘッジあり（毎月分配型）＞+1.4%、＜為替ヘッジなし（毎月分配型）＞+15.4%、＜為替ヘッジあり（年2回決算型）＞+1.9%、＜為替ヘッジなし（年2回決算型）＞+15.5%となりました。

基準価額の推移

期間：2014年5月13日（設定日）～2017年1月31日、日次



- ・為替ヘッジあり（年2回決算型）は上記期間において分配金実績はありません。
- ・基準価額（分配金再投資）とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したものと計算した価額であり、ファンドの収益率を測るためのものです。したがって、課税条件等によって受益者ごとに収益率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。

上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

今後とも「USバンクローンファンド」をご愛顧賜りますよう宜しくお願いいたします。

以上

【Q&A】

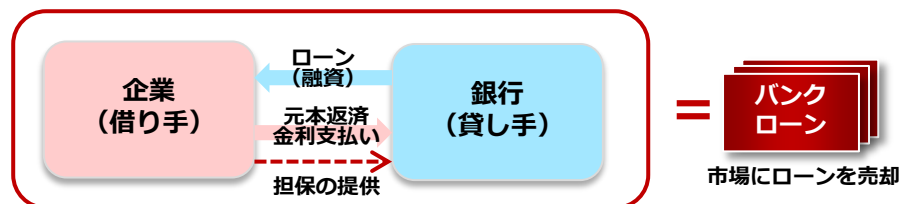
Q.「バンクローン投資のポイント」を教えてください。

A.まとめると以下の3つです。

- ① 市場金利上昇局面での優位性
- ② 社債と比べて高い弁済順位
- ③ 相対的に高い利回り

Q.そもそも「バンクローン」とは何ですか？

A.バンクローンとは、銀行などの金融機関が、企業などに対して行なうローン（融資）のことです。融資に関しては一般に厳しい融資基準が設けられています。



* 上記はイメージです

バンクローンは
債券と同じように
流通市場で
取引されているよ。



Q.「バンクローン」と「ハイ・イールド債」との違いを教えてください。

A.バンクローンとハイ・イールド債は、ともに投資適格未満の格付（投機的格付）の資産ですが、以下のような違いがあります。

バンクローンとハイ・イールド債の比較

	バンクローン	ハイ・イールド債
金利	変動金利	固定金利
弁済順位	相対的に優先	相対的に劣後
担保	あり※	多くは無担保

各資産の時価総額

2017年1月末現在

バンクローン
97兆円

米国
ハイ・イールド債
148兆円

※ バンクローンは担保が設定されているものが一般的ですが、担保が設定されていないものもあります。また、必ずしも設定された担保にて融資の全額が保全されるものではありません。

（出所）各種情報を基に野村アセットマネジメント作成

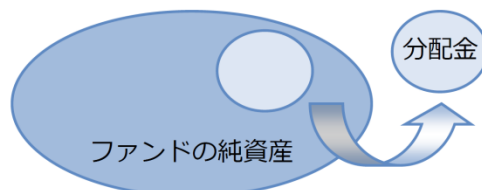
* 2017年1月31日現在の為替レート 1米ドル＝113.78円で換算
バンクローン：S&P/LSTAレバレッジド・ローン・インデックス、米国ハイ・イールド債：BofA・メリルリンチ・US/ハイ・イールド・コンストレイント・インデックス（出所）ブルームバーグ等のデータを基に野村アセットマネジメント作成
上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

上記は、バンクローン市場、バンクローンおよびハイ・イールド債の一般的な特徴を簡易的に示したものであり、すべての特徴を網羅したものではありません。また、すべてが上記の特徴に合致するとは限りません。

当資料は、ファンドに関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載事項は、全て当資料作成時以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、バンクローン等に実質的に投資します（また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。）ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。

分配金に関する留意点

- 分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。



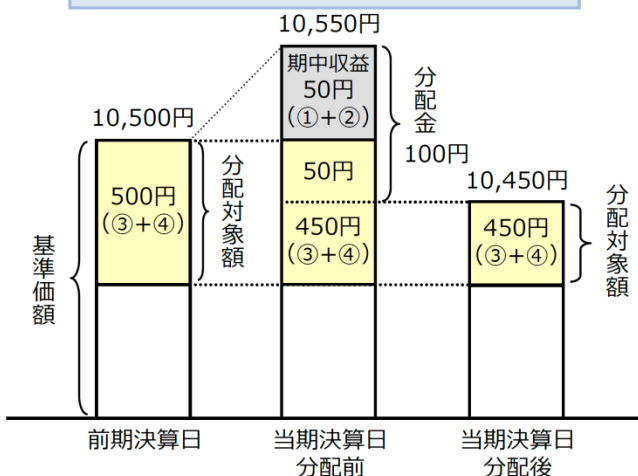
- ファンドは、計算期間中に発生した運用収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて分配を行なう場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。

- ・計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行なった場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。

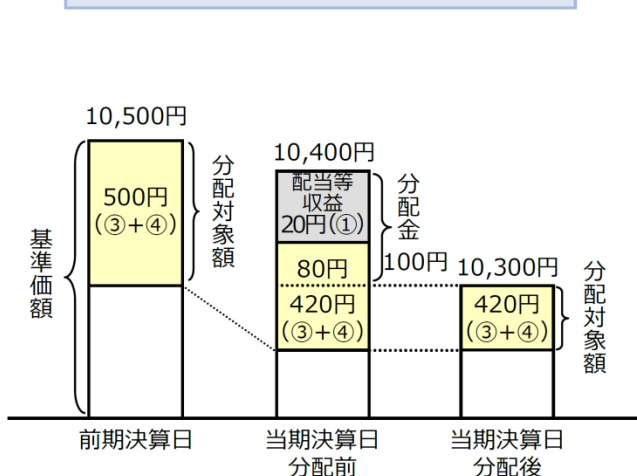
※分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

分配対象額とは、①経費控除後の配当等収益②経費控除後の評価益を含む売買益③分配準備積立金④収益調整金です。

前期決算から基準価額が上昇した場合



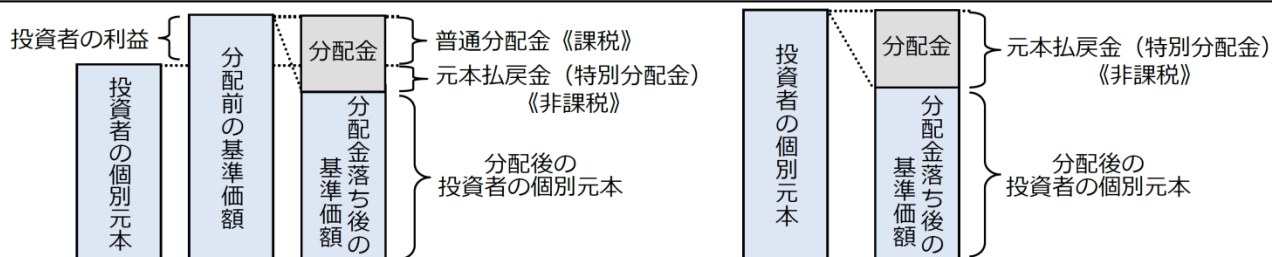
前期決算から基準価額が下落した場合



- 投資者の個別元本（追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本）の状況によっては、分配金額の一部または全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

◇普通分配金 … 分配金落ち後の基準価額が投資者の個別元本と同額の場合または投資者の個別元本を上回っている場合には分配金の全額が普通分配金となります。

◇元本払戻金（特別分配金） … 分配金落ち後の基準価額が投資者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となります。



※投資者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、分配金発生時にその個別元本から元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の投資者の個別元本となります。

（注）普通分配金に対する課税については、投資信託説明書（交付目論見書）の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

上記はイメージ図であり、実際の分配金額や基準価額について示唆、保証するものではありません。

【ファンドの特色】

- 高水準のインカムゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行なうことを基本とします。
- 米ドル建ての企業向け貸付債権(「バンクロン」といいます。)を実質的な主要投資対象*とします。なお、米ドル建ての高利回り事業債(ハイ・イールド・ボンド)等を実質的に投資する場合があります。
※「実質的な主要投資対象」とは、投資信託証券を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。
- ファンドは、分配頻度、為替ヘッジの有無の異なる、4本のファンドで構成されています。
 - ◆「為替ヘッジあり」は、外貨建資産について、為替ヘッジを行なうことを基本とし、「為替ヘッジなし」は、外貨建資産について、為替ヘッジを行わないことを基本とします。
- ファンドは、米ドル建てのバンクロンを主要投資対象とする投資信託証券(投資信託および外国投資信託の受益証券(投資法人および外国投資法人の投資証券を含みます。))および残存期間の短い公社債やコマーシャル・ペーパー等の短期有価証券を主要投資対象とする投資信託証券に投資します。
- 投資信託証券への投資は高位を維持することを基本とします。なお、通常の状態においては、米ドル建てのバンクロンを主要投資対象とする投資信託証券への投資を中心とします*が、投資比率には特に制限は設けず、各投資対象ファンドの収益性および流動性ならびにファンドの資金動向等を勘案のうえ決定することを基本とします。
※通常の状態においては、米ドル建てのバンクロンを主要投資対象とする投資信託証券への投資比率は、概ね90%以上を目処とします。
- 投資信託証券への投資にあたっては、指定投資信託証券の中から、定性評価、定量評価等を勘案して選択した投資信託証券に投資を行なうことを基本とします。なお、組入投資信託証券については適宜見直しを行ないます。
 - ◆指定投資信託証券は、定性評価、定量評価等を勘案して適宜見直しを行ないます。この際、指定投資信託証券として指定されていた投資信託証券が指定から外れる場合や、新たな投資信託証券が指定投資信託証券として指定される場合があります。

■指定投資信託証券である外国投資信託「ノムラ・グローバル・マネージャー・セレクトーバンクロン・ファンド
(日本円為替ヘッジクラス/日本円クラス)」の投資方針等

外国投資信託「ノムラ・グローバル・マネージャー・セレクトーバンクロン・ファンド」の運用は、野村アセットマネジメント株式会社(投資顧問会社)およびドイチェ・インベストメント・マネジメント・アメリカズ・インク(副投資顧問会社)が行ないます。

- ・米ドル建てのバンクロンを主要投資対象とし、高水準のインカムゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行なうことを基本とします。なお、米ドル建てのハイ・イールド・ボンド*等*に投資する場合があります。
※格付機関によってBB格相当以下の格付が付与されているもの(格付のない場合には同等の信用度を有すると判断されるものを含みます。)をいいます。
- ・バンクロンへの投資にあたっては、原則として、弁済順位が高く、かつ担保が設定されたバンクロンに投資を行ないます。また、主として、取得時において格付機関によってBB格相当以下の格付が付与されたもの(格付のない場合には同等の信用度を有すると判断されるものを含みます。)に投資を行ないます。
- ・日本円為替ヘッジクラスは、組入外貨建資産について、原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。
- ・日本円クラスは、組入外貨建資産について原則として為替ヘッジを行ないません。

※上記指定投資信託証券は2017年2月14日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

- ファンドは、複数の投資信託証券(ファンド)を投資対象とするファンド・オブ・ファンズです。
- 構成するファンド間でスイッチングができます。
- 「毎月分配型」は、原則、毎月19日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。分配金額は、分配対象額の範囲内で委託会社が決定するものとし、原則として、利子・配当等収益等を中心に分配を行なうことを基本とします。ただし、基準価額水準等によっては、売買益等が中心となる場合があります。なお、市況動向や基準価額水準等によっては、分配金額が大きく変動する場合があります。
- 「年2回決算型」は、原則、毎年5月および11月の19日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。分配金額は、分配対象額の範囲内で、原則として、利子・配当等収益等の水準および基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。

* 委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

当資料は、ファンドに関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載事項は、全て当資料作成時以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、バンクロン等*に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。)ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。

【投資リスク】

各ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、バンクローン等に実質的に投資する効果を有しますので、信用度の変動等によるバンクローン等の価格下落等により、基準価額が下落することがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替の変動により基準価額が下落することがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

※ファンドの基準価額の変動要因には、この他にも、債券価格変動リスクなどがあります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

【お申込メモ】

- 信託期間 平成35年11月20日まで(平成26年5月13日設定)
- 決算日および収益分配 【毎月分配型】年12回の決算時(原則、毎月19日。
休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
【年2回決算型】年2回の決算時(原則、毎年5月および11月の19日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
- ご購入価額 ご購入申込日の翌営業日の基準価額
- ご購入単位 一般コース:1万口以上1万口単位(当初元本1口=1円)
または1万口以上1円単位
自動けいぞく投資コース:1万円以上1円単位
※お取扱いコース、ご購入単位は販売会社によって異なる場合があります。
- ご換金価額 ご換金申込日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
- スイッチング 構成するファンド間でスイッチングが可能です。
※販売会社によっては、一部または全部のスイッチングのお取扱いを行わない場合があります。
- お申込不可日 販売会社の営業日であっても、申込日当日が下記のいずれかの休業日に該当する場合または12月24日である場合には、原則、ご購入、ご換金、スイッチングの各お申込みができません。
・ニューヨーク証券取引所 ・ニューヨークの銀行
- 課税関係 個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時(スイッチングを含む)および償還時の譲渡益に対して課税されます。ただし、少額投資非課税制度などを利用した場合には課税されません。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

【当ファンドに係る費用】

(2017年2月現在)

◆ご購入時手数料	ご購入価額に3.24%(税抜3.0%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 <スイッチング時> 販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 *詳しくは販売会社にご確認ください。
◆運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの純資産総額に年1.08%(税抜年1.00%)の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。 ○実質的にご負担いただく信託報酬率 ^{注2} 年1.7475%程度 ^{注1} (税込) 注1 投資対象とする投資信託証券の純資産総額等によっては、記載の信託報酬率を下回る場合があります。 注2 ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を加味して、投資者が実質的に負担する信託報酬率について算出したものです。この値は、平成29年2月14日現在のものであり、指定投資信託証券の変更等により今後変更となる場合があります。
◆その他の費用・手数料	組入価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、ファンドに関する租税等がお客様の保有期間中、その都度かかります。 ※これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。
◆信託財産留保額 (ご換金時・スイッチングを含む)	1万口につき基準価額に0.3%の率を乗じて得た額

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

【ご留意事項】

- ・投資信託は金融機関の預金と異なり、元本は保証されていません。
- ・投資信託は預金保険の対象ではありません。
- ・登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金制度が適用されません。

—当資料で使用した市場指数について—

●BofA・メリルリンチ・USハイ・イールド・コンストレインド・インデックス(BofA Merrill Lynch US High Yield Constrained Index)は、バンクオブアメリカ・メリルリンチが算出する、米国のハイ・イールド・債券市場全体のパフォーマンスを表す代表的な指数です。BofA・メリルリンチ米国10年国債インデックス(BofA Merrill Lynch US Treasury, Current 10 year)は、バンクオブアメリカ・メリルリンチが算出する、米国10年国債のパフォーマンスを表す代表的な指数です。当該インデックスに関する一切の知的財産権その他一切の権利は、バンクオブアメリカ・メリルリンチに帰属しております。●S&P500株価指数、S&P米国REIT指数は、スタンダード・&プアーズ ファイナンシャル サービスーズ エル エル シーの所有する登録商標です。

◆設定・運用は

野村アセットマネジメント

商号:野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
加入協会:一般社団法人投資信託協会／一般社団法人日本投資顧問業協会

当資料は、ファンドに関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載事項は、全て当資料作成時以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、バンクローン等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資しますので、この他に為替変動リスクもあります。)ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しの投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。

USバンクローンファンド 為替ヘッジあり(毎月分配型)／為替ヘッジなし(毎月分配型)
USバンクローンファンド 為替ヘッジあり(年2回決算型)／為替ヘッジなし(年2回決算型)

お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社りそな銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第3号	○		○	
株式会社埼玉りそな銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第593号	○		○	
株式会社静岡銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第5号	○		○	
株式会社近畿大阪銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第7号	○			

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。
※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。